

第2回 市川市新庁舎建設設計者選考委員会 会議録

- 1 開催日時：平成25年10月16日（水） 午前10時00分～午後0時40分
- 2 場 所：市役所本庁舎3階 第4委員会室
- 3 出席者：
委員 歌代委員、加藤委員、川岸委員、山本委員
（欠席者 岡本委員、川上委員、前野委員、武藤委員、）
事務局 吉野次長、田中次長、岩井室長以下庁舎整備推進担当室3名
- 4 議 事
（1）一次選考について
（2）二次選考の進め方について

【午前10時00分開会】

- （1）一次選考について（応募者については、（ア）者、（イ）者、（ウ）者、（エ）者、（オ）者、（カ）者、（キ）者と標記した）

① 参加資格について

- ・（ウ）者については、参加資格は無いが、提出された提案等を選考委員で採点した上で判断したい。

⇒そのようにする。

- ・（ウ）者の参加資格なしとした理由を説明して下さい。

⇒今回のプロポーザルの参加資格は、「国又は地方公共団体から元請で設計業務を請け負った実績」としており、その設計業務がPFI事業の場合、設計事務所が特別目的会社（SPC）の構成員に入っていれば、元請と解釈できると整理し、協定書等で確認できるものを実績があるものとした。

（ウ）者については、ヒアリングをしたところ15,000㎡を超える実績が1件だけで、この1件がPFI事業であった。（ウ）者は、SPCの構成員になっていないことが確認され、直接的に契約を請け負った元請と解釈することが出来ないことから、参加資格を満たさなかったものである。

② 業務実施方針の評価の説明

（ア）者について

- ・解体設計チームの設置、3D、数値化技法を用いた空間構成の検討は評価できる。
- ・一般的な提案で具体性に欠ける。独創性が無く、意欲が感じられない。

- ・市川市の特性や周辺情報の把握が不十分である。
- ・ワークショップについては具体的な提案はあるが、内容の記述が不十分である。

(イ) 者について

- ・周辺地域、上位計画の中での庁舎の位置付けをきちんと読み取った上で、具体性のある提案をしておき評価できる。
- ・専門技術事務所との連携及びエコアイテムの開発は評価できる。
- ・ワークショップに関しては、「模型や CG を使用し、合意形成を図る。」としており、具体的な提案となっている。
- ・「緑と文化のサークル」の具体的な実現性の担保が不明である。
- ・第1庁舎の広場の位置や遊歩道を京成線側に配置することには疑問がある。
- ・ワンストップサービスについての記載がない。
- ・国道14号と庁舎の緑のカスケードとの位置関係が近すぎる点や、地下駐車場を多く採用している点で十分に検討したか疑問がある。
- ・緑のネットワーク等が強調されているが、その動線には無理がある。

(ウ) 者について

- ・全般的に提案が劣る。必要な容積を限られた予算で実現できるのかということが、設計方針の中で不明である。
- ・実施体制は、組織事務所と一体となって提案をしていくようであるが、他と比べて劣る。
- ・ワークショップの記述があるが、具体性に欠ける。
- ・設計体制から設計業務の進め方まで色々と書いてあるが、具体性に疑問がある。
- ・全体工程が非常にラフである。

(エ) 者について

- ・全般的に的確で意欲的。創造性と実現性のバランスがとれており「提案書」の完成度が高い。
- ・自ら8つの課題を設定し、その課題に対して自分の事務所がどのように対応するのかが書かれており、具体性が高い。
- ・第1庁舎は既存庁舎の地下躯体の実績を踏まえて地下1階、第2庁舎は海岸に近いことを考慮して地下なしという設計方針にしている点は合理的である。
- ・市川市在住の建築家を管理技術者に配置し、市民の目線に立っていることを強調している。
- ・ワークショップと打合せをキャッチボールするような提案については、意欲

を感じた。

- ・ 竣工までの大きなリスクに対応する提案がなされている。
- ・ 自社でない他の専門家、技術者等を登用する様な消極的な考え方がみられ不満である。
- ・ 利用者である職員とのワークショップがなく不満である。

(オ) 者について

- ・ 市民参加・情報提供について、市民アンケートやシンポジウムを開催することは評価できる。
- ・ BCPチームや施工計画者などの体制は評価できる。
- ・ 工期やコストに配慮した実現性の高い提案である。特にスケジュール管理の面では、現時点のポイントをしっかり押さえており、優れた提案である。
- ・ 立体駐車場を提案しているが、車両導線や庁舎の2, 3階からの景観等が充分説明されていない。
- ・ 設計コンセプトについては、実用的な観点から一通り網羅されているが、新しい市役所として市民に夢を与えたり、未来を先取りするという観点から見るとデザインコンセプトが不十分である。

(カ) 者について

- ・ 設計方針が明確で分かりやすい。
- ・ プロジェクトチームの体制は評価できる。
- ・ 全体的に読み込みが浅く、十分に検討した経緯が見られない。
- ・ 交通負荷について記述があるが、全体的な状況把握に欠ける。

(キ) 者について

- ・ 「みどりの庁舎」や「あおの庁舎」の提案と環境一体型庁舎については評価できる。
- ・ 工期に関しては、負荷の生じるポイントをある程度整理していることと、全体工程の短縮化を図ることは評価できる。
- ・ 2つの庁舎をどのように繋いでいくのかというところが、きちんと書かれている点が評価できる。
- ・ 生涯ワークショップを継続という興味深い記述があるが、具体的な説明がない。
- ・ 設計方針については、問題解決型のチーム構成は評価できるが、問題提起が欠けている。

③ 一次選考について

- ・ 一次選考で事務局が点数を付けた事務所の実績、配置される技術者の実績や

資質の評価について、明らかに劣るものは無いのか。

⇒どの会社もそれなりに実績があり、当該業務を実施できる能力があると判断できる。

- ・一次選考の業務実施方針による提案は、一部不十分なところがあった参加表明者に対しても、二次選考の提案に期待できるものがある。
- ・今回のプロポーザルは参加表明者が7者と想定より少なく、審査の結果、評価点に大きな開きがないことから、会社の能力として業務実施に問題が無ければ5者に絞り込む必要はないのではないかと。

(まとめ)

- ・一次選考の結果、(ウ) 者を除く6者を選考する。

(2) 二次選考の進め方について

・プレゼンの際の質疑は、6者に対して定型的な質問をすると時間が多く取られるため、各委員が自由な質問をする。

・プレゼン前に、評価の方法について再度確認したい。これを、プレゼン当日(12/15)の午前中に会議を開催し確認してはどうか。

⇒12/15の会議開催で調整する。また、本日欠席している委員に対して二次選考の進め方について周知する。

・特定テーマで、庁舎空間とデザインの考え方の違いがわかりにくい。6者に対して追加で説明する必要ないか。

⇒参加者に対し、補足説明を行う。

【午後0時40分閉会】